

編集後記

前号で新型コロナ感染被害につけ込んだコンピュータウイルスの問題について触れましたが、その後、残念なことに本物の新型コロナウイルスは凄まじい勢いで世界中に拡散してしまいました。世界的な視野で見れば、我が国はかろうじて踏みとどまったと言えますが、4月7日には特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令され、更に5月4日には延期が表明される事態となりました。5月25日には首都圏も含めて解除されましたが、人的被害はもとより、経済的な損失の規模も、リーマンショックをはるかに超える規模。なによりも治療薬やワクチンの開発など、医療面でのブレークスルーの見通しが見つからないことが、人々を不安に陥れている要因のような気がします。

ともあれ、感染被害を押さえ込むため、人との接触を8割減らすためには、テレワークによる在宅勤務に切り替えざるを得ません。けれども、そのためにはツール、つまりネット環境とパソコン(カメラ付き)、そしてWeb会議やリモートアクセスのためのソフトが必要です。

今回、幸いなことに、パソコンいじりの趣味が功を奏しました。大慌てでオークションから中古のカメラ付ノートパソコンを調達。修理して職員に配り、2週間ほどでZoomを導入したWeb会議やリモートアクセスなど、最低限の体制を整えました。これまでWeb会議には相当規模のシステム開発経費が必要との思いこみがあったのですが、小規模な事務所であれば、無償ソフトでも十分に対応できるのですね。やはりITの世界はすばらしく進化していることを実感した次第です。

ただ、これらのソフトも実に種類が多く、使い勝手とセキュリティの相反という問題に直面します。例えば、Zoomで自宅から職場のパソコンを操作しようとするれば、まず、ミーティングを開催してからリモートアクセスを許可するという2段階のステップが必要です。ところが、中には単にソフトを起動するだけで他のパソコンを操作できる優れたものもあるのです。ただし、優れている反面、セキュリティ確保の観点からは導入には慎重にならざるを得ません。いずれにしても、最低限のITスキルを身につけながら、新型コロナウイルスともIT(AI)とも、うまく折り合いをつけて暮していくことが必要なのでしょう。むしろ、新型コロナウイルス感染被害への対応を契機に、働き方、さらには生き方そのものを改革することが求められているのではないのでしょうか。

我が家の菜園では、ガラス豆の栽培が2年めとなり、薄水色に縞模様の可憐な花が一面に咲き誇っています。今後、できるだけ早く新型コロナ感染被害が収束するとともに、豆類などの農作物が、無事に生育して豊穡の秋を迎えることを期待したいものです。

(矢野 哲男)

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL: 03-5570-0071
FAX: 03-5570-0074

豆類時報

No. 99
2020年6月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL: 03-3584-6845
FAX: 03-3584-1757
